

## ～JR 東日本と小田急電鉄は、 シームレスに移動できる社会の実現に向けて連携します～

- 東日本旅客鉄道株式会社(東京都渋谷区 代表取締役社長:深澤 祐二/以下「JR 東日本」)と小田急電鉄株式会社(東京都新宿区 取締役社長:星野 晃司/以下「小田急電鉄」)は、日々の通勤・通学やご旅行の際、お客さまがシームレスに移動できる社会を目指して、「MaaS※」提供に向けて取り組んでいます。
- このたび両社は、お客さまに各鉄道会社間の境界を越えたサービスの提供を目指し、「MaaS」の連携について検討を開始します。
- これにより、例えば混雑や遅れの情報に基づいて迂回乗車経路を提案するなどの、リアルタイムかつ利便性の高いサービスの提供に取り組んでいきます。
- 他の鉄道事業者等との連携も順次拡大していきたいと考えています。

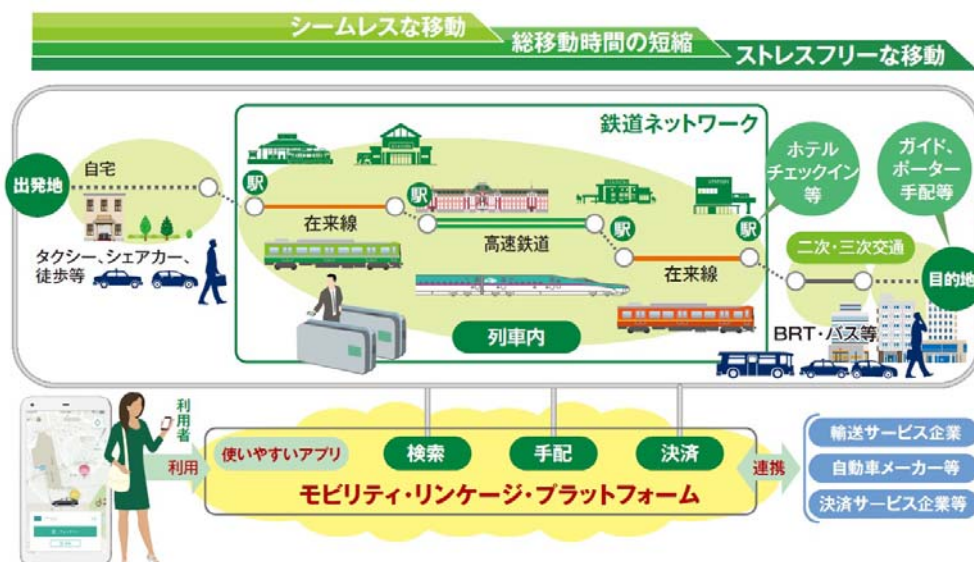
※「Mobility as a Service」の略

### 1. MaaS 提供に関する各社の取組み

#### 【JR 東日本】

グループ経営ビジョン「変革 2027」において、移動のための検索・手配・決済をお客さまにオールインワンで提供する「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム」を構築し、「シームレスな移動」「総移動時間の短縮」「ストレスフリーな移動」を実現することを目指しています。

これにより、お客さまが 24 時間、あらゆる生活シーンで最適な手段を組み合わせるサービスを利用できる環境を実現します。



### 【小田急電鉄】

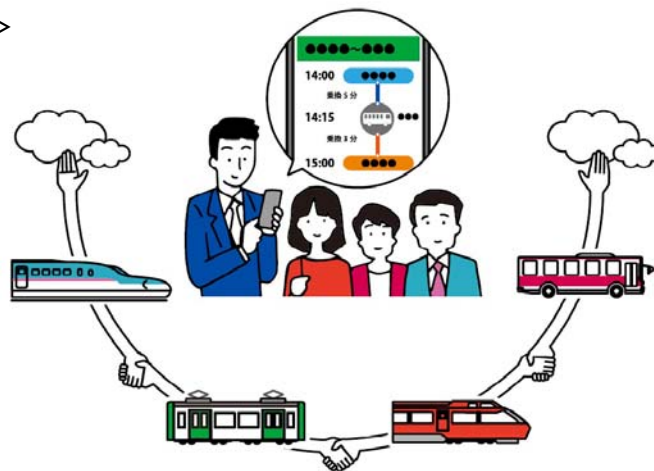
「長期ビジョン2020」に基づく中期経営計画において、「次世代モビリティを活用したネットワークの構築」を掲げ、小田急グループが保有する多様な交通サービスや生活サービスを、パートナーと連携しながらシームレスに連動させて、1つのサービスとして利用者に提供することを目指しています。具体的には、「小田急 MaaS アプリ」(仮称)アプリを通じて、目的地までの移動はもちろん、目的地での楽しみ方の提案から、飲食や宿泊などの予約・決済までを一括して提供するネットワークの構築を進めています。

## 2. 今回の連携による将来のイメージ

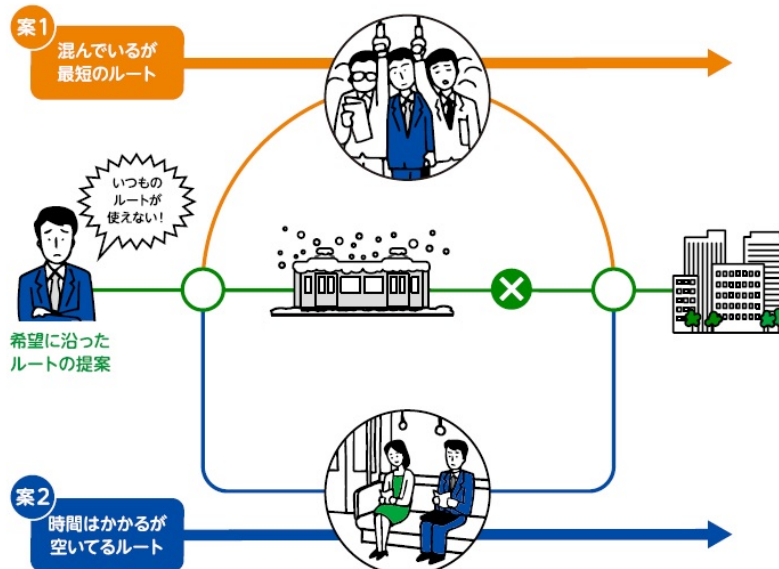
これまで両社は、自社の鉄道会社公式スマートフォンアプリの連携などを行ってきました。

今後は、各社が構築する MaaS についても連携することで、各社の境界を越え、例えば情報提供や輸送障害発生時の迂回乗車経路提案などを実現できるよう、検討を進めていきます。

### <サービスイメージ>



### <輸送障害発生時の迂回経路の提案>



## 3. 今後の展開について

他の鉄道事業者等とも、順次連携を拡大していきたいと考えています。